

由來伊犁は中央亞細亞に於て、最も肥沃の地と稱せられ、之を露領土耳其機斯坦に比すれば、其の豐歉實に霄壤も啻ならず。故を以て其地に住する國家觀念なき人民は、其籍を露國に置くに拘らず、禁を犯して國境を越え、壇に伊犁の豐沃なる地方に移住する者、比々皆然りとす。故を以て露國は總領事館を置きて之を統轄せしめ、村長組長の如き者を自國民より選びて之れを各所に配布し、彼等を管治せしむること敢て自國に於けると異らず。甚しきは土地を私有して永住の基礎を造り或は之に工場を建て、經營の歩を進めつゝ在り。之を清國官憲に問へば、因襲の久しき復た如何ともすべからずと答へ、之れを重要視せずして袖手傍觀し在るが如き態度なり。

## 露商の數

露國農民及遊牧民が長江の大海に朝するが如き勢を以て、駸々乎として新疆に移住すると共に露國商人も亦省内の要所に各、其の立脚地を固めつゝ在り。而して其數果して幾何ありや、統計の徵すべきもの無きが故に、精確なる數は得て知るべからざるも、總計約一萬人を下らざるが如し。試みに之れを各地に區分すれば伊犁地方最も多數を占め、一半即ち約五千人に上り、塔爾巴哈臺之れに次きて約二